

2024_0108「カラマツの着雪（写真）」日々の理科 3441号

お茶の水女子大学 サイエンス&エデュケーション研究所 田中 千尋

カラマツ（落葉松）は、名の通り「落葉する松」です。日本で普通に見られる針葉樹で、秋から冬にかけて葉を落とすのは「カラマツ」と「アケボノスギ（メタセコイア）」だけです。

モミやトウヒの仲間などの寒冷地に適応した針葉樹は、一般に枝が非常にしなやかです。葉に大量の雪が積もっても折れることなく、お辞儀をしたように垂れ下がります。樅の枝は地面まで着いても折れることはまずありません。更に雪が積もると、樹木全体が雪に埋もれて、円錐形の雪塊のようになります。しかしカラマツは、モミのように枝がしなやかではありません。枝が非常に脆く、雪の重さに耐えられないので、秋に葉をすべて落とすのです。

それでも気温が0℃前後で降った、重く湿った雪が積もると、かなり太い枝も折れることがあります。春にカラマツ林を歩くと、折れたカラマツの枝で林床が一杯になっていることもあります。幸い、正月に北軽井沢に降った雪はわずかだったので、枝が折れることもなく、着雪した雪がカラマツの梢を美しく飾っていました。

(2024年1月上旬／北軽井沢)

